

# 第102回定時株主総会招集ご通知に際しての インターネット開示事項

## 連 結 注 記 表 個 別 注 記 表

第102期  
(自 2016年4月1日)  
(至 2017年3月31日)

## 富士通フロンテック株式会社

連結計算書類の「連結注記表」および計算書類の「個別注記表」につきましては、法令および当社定款第15条の規定に基づき、当社ホームページに掲載することにより、株主のみなさまへご提供しております。

## 連結注記表

1. 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項等	
(1)会社計算規則（平成18年2月7日法務省令第13号、最終改正 平成28年1月8日法務省令第1号）に基づいて連結計算書類を作成しております。	
(2)連結の範囲に関する事項	
①連結子会社の状況	10社
・連結子会社の数	株式会社富士通フロンテックシステムズ トータリゼータエンジニアリング株式会社
・連結子会社の名称	株式会社ライフクリエイト 株式会社テルシイ 東海エンジニア株式会社 FUJITSU DIE - TECH CORPORATION OF THE PHILIPPINES 富士通先端科技（上海）有限公司 Fujitsu Frontech North America, Inc. KIDEN DEVELOPMENT CORPORATION OF THE PHILIPPINES Fujitsu Frontech Canada Inc.
②非連結子会社の状況	非連結子会社はありません。
(3)持分法の適用に関する事項	該当事項はありません。
(4)連結子会社の事業年度等に関する事項	連結子会社のうち、富士通先端科技（上海）有限公司の決算日は、12月31日であります。 連結計算書類の作成に当たって、同社については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。
(5)資産の評価基準および評価方法	
①有価証券の評価基準および評価方法	
・その他有価証券 時価のあるもの	当連結会計年度末の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）
時価のないもの	移動平均法による原価法
②デリバティブの評価基準および評価方法	
・デリバティブ	時価法
③たな卸資産の評価基準および評価方法	
・製品・仕掛品	個別法および総平均法による原価法
・原材料・貯蔵品	先入先出法による原価法
（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）	
(6)固定資産の減価償却の方法	
①有形固定資産（リース資産を除く）	定額法
②無形固定資産（リース資産を除く）	
・市場販売目的のソフトウェア	見込販売数量に基づく償却額と残存有効期間（3年）に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上しております。
・自社利用のソフトウェア	定額法（5年）
・その他無形固定資産	定額法
③リース資産	リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
(7)引当金の計上基準	
①貸倒引当金	売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。 なお、在外連結子会社については、その回収可能性を勘案した回収不能見込額を計上しております。
②役員賞与引当金	役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。
③役員退職慰労引当金	役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。
④不採算損失引当金	不採算ビジネスに係る契約のうち、当連結会計年度末時点で今後発生が見込まれる損失について、合理的に見積もられる金額を計上しております。
(8)退職給付に係る会計処理の方法	
①退職給付見込額の期間帰属方法	退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
②数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法	数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。 過去勤務費用は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により費用処理しております。
(9)収益および費用の計上基準	
ソフトウェア開発契約の収益認識基準	ソフトウェアの開発契約の収益認識については、開発作業の進捗に応じて収益を計上する進行基準を採用しております。

(10)外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準 外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は、損益として処理しております。  
 なお、在外子会社の資産および負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および非支配株主持分に含めております。  
 のれんについては、10年で均等償却しております。

(11)のれんの償却に関する事項

(12)その他連結計算書類作成のための重要な事項

①ヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

・ヘッジ手段

・ヘッジ対象

ハ. ヘッジ方針

二. ヘッジの有効性評価の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

株式オプション

投資有価証券

外貨建上場有価証券の株価変動リスクを低減するため、株式オプション取引契約を締結しております。

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、オプション価格とヘッジ対象の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

税抜方式

②消費税等の会計処理

2. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

30,760百万円

3. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

(1)発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首の株式数(株)	当連結会計年度増加株式数(株)	当連結会計年度減少株式数(株)	当連結会計年度末の株式数(株)
普通株式	24,015,162	—	—	24,015,162

(2)剰余金の配当に関する事項

①配当金支払額等

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2016年5月20日 取締役会	普通株式	263百万円	11円00銭	2016年3月31日	2016年6月3日
2016年10月26日 取締役会	普通株式	263百万円	11円00銭	2016年9月30日	2016年11月28日
計	—	527百万円	22円00銭	—	—

②基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生が翌連結会計年度になるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
2017年5月19日 取締役会	普通株式	利益剰余金	263百万円	11円00銭	2017年3月31日	2017年6月2日

③当連結会計年度の末日における当社が発行している新株予約権の目的となる株式の種類および数

普通株式

118,400株

4. 金融商品に関する注記

(1)金融商品の状況に関する事項

①金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業活動における資金需要に基づき、銀行借入と富士通グループCMSにより短期的に資金を調達しております。また、余剰資金は、主に預金として運用しております。デリバティブ取引については、ヘッジ目的のみ利用し、投機的な目的では行っておりません。

②金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金は、概ね半年以内の支払期日であります。また、その一部には外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約および、投資有価証券に係る株価の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした株式オプションを利用しております。

③金融商品に関するリスク管理体制

イ. 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、定期的取引先の状況を確認し、取引先毎に期日および残高を管理するとともに取引先の信用力低下等による回収が懸念される債権の早期把握やリスク軽減を図っております。

ロ. 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務については、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、原則として先物為替予約を利用してヘッジしております。

投資有価証券については、定期的な時価や出資先の財務状況を把握して、保有状況を継続的に見直しております。

ハ. 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いをできなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき、適時、資金計画を作成・更新することにより、手元流動性の維持を図り、流動性リスクを管理しております。

(2)金融商品の時価等に関する事項

2017年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	6,716	6,716	—
(2)預け金	12,064	12,064	—
(3)受取手形及び売掛金 貸倒引当金（*）	23,866 △23		
	23,842	23,842	—
(4)投資その他の資産 投資有価証券	545	545	—
資産計	43,168	43,168	—
(1)支払手形及び買掛金	15,797	15,797	—
(2)リース債務（流動負債）	1,160	1,160	—
(3)未払金	3,979	3,979	—
(4)未払費用	3,111	3,111	—
(5)リース債務（固定負債）	2,254	2,302	48
負債計	26,303	26,351	48
デリバティブ取引 ヘッジ会計が適用されているもの	595	595	—
デリバティブ取引計	595	595	—

(\*) 売掛金に対応する一般貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)預け金、(3)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4)投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

①その他有価証券の当連結会計年度中の売却はありません。また、その他有価証券において、種類ごとの連結貸借対照表計上額、取得原価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	545	406	139
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	—	—	—
合計		545	406	139

②上記の表中にある「取得原価」は減損処理後の帳簿価額であります。

負債

(1)支払手形及び買掛金、(2)リース債務（流動負債）、(3)未払金、(4)未払費用

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(5)リース債務（固定負債）

リース債務（固定負債）の時価については、元利金の合計額を、同様の新規リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているもの

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時価
繰延ヘッジ処理	株式オプション	投資有価証券	554	554	595

時価の算定方法は、外部機関から提示された価格によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額（百万円）
非上場株式	7

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、(4)投資有価証券には含まれておりません。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内
現金及び預金	6,716	—	—	—	—
預け金	12,064	—	—	—	—
受取手形及び売掛金	23,866	—	—	—	—
合計	42,646	—	—	—	—

(注4) リース債務（固定負債）の連結決算日後の支払予定額

(単位：百万円)

	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
リース債務（固定負債）	949	649	467	174	13
合計	949	649	467	174	13

5. 1株当たり情報に関する注記

- (1) 1株当たり純資産額 1,825円07銭  
 (2) 1株当たり当期純利益 153円37銭

6. その他の注記

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 個別注記表

## 1. 重要な会計方針に係る事項

(1) 会社計算規則（平成18年2月7日法務省令第13号、最終改正 平成28年1月8日法務省令第1号）に基づいて、計算書類を作成しております。

### (2) 資産の評価基準および評価方法

#### ① 有価証券の評価基準および評価方法

- ・ 子会社および関連会社株式
- ・ その他有価証券  
時価のあるもの

移動平均法による原価法

時価のないもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

移動平均法による原価法

#### ② デリバティブの評価基準および評価方法

- ・ デリバティブ

時価法

#### ③ たな卸資産の評価基準および評価方法

- ・ 製品・仕掛品
- ・ 原材料・貯蔵品

個別法および総平均法による原価法

先入先出法による原価法

（貸借対照表価額は、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。）

### (3) 固定資産の減価償却の方法

#### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法

#### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

- ・ 市場販売目的のソフトウェア
- ・ 自社利用のソフトウェア
- ・ のれん
- ・ その他無形固定資産

見込販売数量に基づく償却額と残存有効期間（3年）に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上しております。

定額法（5年）

のれんについては、10年で均等償却しております。

定額法

#### ③ リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (4) 引当金の計上基準

#### ① 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### ② 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

#### ③ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

##### イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

##### ロ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、前払年金費用19百万円は、「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しております。

#### ④ 不採算損失引当金

不採算ビジネスに係る契約のうち、当事業年度末時点で今後発生が見込まれる損失について、合理的に見積もられる金額を計上しております。

### (5) 収益および費用の計上基準

#### ソフトウェア開発契約の収益認識基準

ソフトウェアの開発契約の収益認識については、開発作業の進捗に応じて収益を計上する進行基準を採用しております。

### (6) 外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は、損益として処理しております。

### (7) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

#### ① ヘッジ会計の方法

##### イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

##### ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ ヘッジ手段
- ・ ヘッジ対象

株式オプション

投資有価証券

##### ハ. ヘッジ方針

外貨建上場有価証券の株価変動リスクを低減するため、株式オプション取引契約を締結しております。

##### ニ. ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、オプション価格とヘッジ対象の相場変動の累計を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

#### ② 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

#### ③ 消費税等の会計処理

税抜方式

2. 貸借対照表に関する注記

(1)有形固定資産の減価償却累計額	26,742百万円
(2)関係会社に対する金銭債権、債務（区分表示したものを除く）	
①短期金銭債権	15,636百万円
②短期金銭債務	9,005百万円

3. 損益計算書に関する注記

関係会社との取引高	
営業取引による取引高	
①売上高	64,547百万円
②仕入高	39,783百万円
③販売費及び一般管理費	186百万円
営業取引以外の取引高	310百万円

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

自己株式の種類および数

株式の種類	当事業年度期首の株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末の株式数（株）
普通株式	47,714	641	—	48,355

(注) 自己株式の数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

5. 税効果会計に関する注記

(1)繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因の内訳

繰延税金資産	
未払賞与	752百万円
未払事業税等	79百万円
たな卸資産評価損	387百万円
固定資産償却超過額	787百万円
関連会社株式評価損	518百万円
繰延ヘッジ損益	18百万円
その他	146百万円
繰延税金資産小計	2,689百万円
評価性引当額	△553百万円
繰延税金資産合計	2,136百万円
繰延税金負債	
租税特別措置法上の準備金	△23百万円
その他有価証券評価差額金	△42百万円
その他	△13百万円
繰延税金負債合計	△79百万円
繰延税金資産の純額	2,057百万円

(2)法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に差異があるときの当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率	30.86%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.75%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.44%
住民税均等割等	0.53%
評価性引当額	△0.00%
税額控除	△6.35%
その他	0.16%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	23.51%



6. 関連当事者との取引に関する注記

(1)親会社および法人主要株主等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	資本金 または 出資金	事業の内容 または職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
					役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社	富士通株式会社	百万円 324,625	ソフトウェア、情報処理分野および通信分野の製品の開発、製造および販売ならびにサービスの提供	被所有 直接 53.4 間接 0.2	同社から 転籍6名	製品の販売先および材料の仕入先	製品の売上注1.2	52,939	売掛金	10,969
							材料の仕入注1.2	18,914	買掛金	2,356
							立替等注1.2	2,924	未払金	774

取引条件および取引条件の決定方針等

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等については、市場実勢を勘案し、交渉のうえ決定しております。

2. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(2)子会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	資本金 または 出資金	事業の内容 または職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
					役員の 兼任等	事業上の 関係				
子会社	FUJITSU DIE-TECH CORPORATION OF THE PHILIPPINES	百万ペソ 245	グローバルプロダクトビジネス、パブリックソリューションビジネス	所有 直接 100	なし	当社金型およびメカコンポーネントの製造	有償社給等注1.2	6,158	未収入金	811
							材料の仕入注1.2	15,673	買掛金	1,188
子会社	富士通先端科技(上海)有限公司	百万円 200	グローバルプロダクトビジネス、パブリックソリューションビジネス	所有 直接 100	1名	メカコンポーネントおよび表示装置の販売・保守	製品の売上注1.2	1,017	売掛金	424
子会社	Fujitsu Frontech North America, Inc.	百万米ドル 17.1	グローバルプロダクトビジネス、フロントソリューションビジネス	所有 直接 100	2名	効力ボート等の販売、ウェアラブルデバイス等の開発・製造・販売	製品の売上注1.2	10,447	売掛金	3,363
子会社	株式会社ライフクリエイト	百万円 20	その他	所有 直接 100	なし	施設の管理、物流業務等	物流作業委託等注1.2	296	買掛金・未払金	36
							資金の運用代行注1.2	—	預り金	110
子会社	株式会社富士通フロンテックシステムズ	百万円 200	サービスインテグレーションビジネス	所有 直接 100	なし	ソリューション、サービス関連ソフトウェアの提供	ソフト開発委託等注1.2	3,383	買掛金	270
							資金の運用代行注1.2	2,602	預り金	2,149
子会社	トータリゼータエンジニアリング株式会社	百万円 400	サービスインテグレーションビジネス、パブリックソリューションビジネス	所有 直接 100	なし	システム運用・保守サービスの提供	保守・サービス委託等注1.2	1,294	買掛金	449
							資金の運用代行注1.2	4,650	預り金	1,050

取引条件および取引条件の決定方針等

(注) 1. 取引条件ないし取引条件の決定方針等については、市場実勢を勘案し、交渉のうえ決定しております。

2. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。



## (3)兄弟会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	資本金 または 出資金	事業の内容 または職業	議決権等の 所有(被所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額	科目	期末残高
					役員の 兼任等	事業上の 関係				
親会社の子会社	富士通キャピタル株式会社	百万円 100	親会社の子会社 に対する金銭の 貸付および資金 の運用	なし	なし	資金の調達・ 預託、ファク タリング取引 先	資金の運用 委託 注1	120,500	預け金	11,800
							ファクタリ ング 注2,3	18,091	買掛金 ・未払金	4,074

## 取引条件および取引条件の決定方針等

(注) 1. 資金の預け入れにつきましては、安定性・収益性・利便性を考慮した経済合理性に基づき、期間および市中金利等を勘案して決定しております。

2. 富士通キャピタル株式会社に対する買掛金については、当社、当社の仕入先、富士通キャピタル株式会社の三者間で基本契約を締結し、ファクタリング方式による決済を行っているものであります。

3. ファクタリング取引については、消費税等を含んで表示しております。

## 7. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 1,744円07銭

(2) 1株当たり当期純利益 122円12銭

## 8. その他の注記

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。